



「このプロジェクトは、ひとつのキッチンで5人のシェフが仕事をしているようなもの。面白いからこそユニークなものができるのです」(ホルツマンさん)。「時計師として見上げるような存在だった人と一緒に働ける素晴らしい体験です」(ピーターさん)

2

008年春にジュネーブで独自の展示会を開き、そのプロジェクトが公表された「メートル・デュ・タン」。アメリカ人実業家スティーブン・M.ホルツマンさんが提唱し、独立時計師たちが「ドリーム・チーム」を組み、次々に複雑時計を開発していくという、まさに夢のプロジェクトだ。

「誰もが、素晴らしい共同作業だと評価してくれました。私はこれまでセールスマンの視点で時計を作ってきましたが、今回は売れることより、感情を揺り動かすエモーショナルな時計を作りたいと考えたのです。とはいえ最終的には売れるかどうかが商品力が試されます。すでにいくつかは販売店に納めましたが、顧客の手に渡って、それがどう受け入れられるかが勝負だと思っ

来日時計人インタビュー⑤

Steven M. Holtzman

スティーブン・M.ホルツマン(右)
[メートル・デュ・タン CEO]

Peter Speake-Marin

ピーター・スピーク・マリン(左)
[独立時計師]

凄腕独立時計師が結集し、「夢の時計」に取り組む
ドリームチーム・プロジェクト

Photos: Kazuyuki Takahashi (PACO)
Interviewer: Masaharu Nabata

チャプター・ワン 4158万円 上下のローリング・バーで月齢と曜日を表示するトゥールビヨン・クロノグラフ。手巻き。18KFG。縦62.8×横45.9mm。限定33本。入荷済み。税DKSHジャパニ03-5441-4515 (上)。チャプター・トゥーのケース。「ワン」よりやや小さいのだが、基本的な構想は同一。完成モデルは次のパゼルで発表予定



ています(ホルツマンさん)

それにしてもスピーク・マリン、ロジェ・デュブイ、クリストフ・クラレ、ダニエル・ロートなど、よくもまあこれだけ凄い時計師たちを口説き落とし、プロジェクトに参加させられたものだと感心する。

「ホルツマンさんの凄いところは独立時計師という芸術家を集め、その作品をもつひとつ高いレベルまで引き上げたこと。これはある意味、危険な賭であり、悲劇的な結果を招きかねません。ところが相互に尊敬して仕事ができる人を見つけて個性を見抜き、チームとしてまとめた手腕に敬服します(ピーターさん)

「私の役目はコネクター。時計師という人たちはムーブメントの世界に閉じこもっているように見えます。そこで私の出番です。彼らは時計のことだけ考えていたいだろうし、私も、彼らにはそうしてほしいので、

ビジネスの部分を担当できればと考えたのです。技術的な側面については貢献できませんが、私なりの方法で別な要素を付け加えることができます(ホルツマンさん)

ここでホルツマンさんが言った「別な要素」とは、彼のファミリー・ビジネスに由来する。実はホルツマンさんの実家は「グリュエン」という米国生まれの時計ブランドを経営していたのだ。その特徴は「カーベックス」という立体的なデザイン。そこで彼はカーベックス・ケースを基本として、彼がかつて入手した古い時計から着想した円筒形のローリング・バーに、さまざまな機能を付加するということを着想した。

「チャプター・ワンとトゥーは完成し、すでにチャプター・スリーのデザインも決定。共通するのはローリング・バーで、これにどう機能を持たせるかが時計師への課題です(ホルツマンさん)

話を聞いているだけでワクワクしてくるプロジェクトだが、これは時計師たちにとっても刺激的な体験であるようだ。

「参加する時計師が、みんなエネルギーに溢れていることに驚いています。写真撮影でも凄く興奮しています。きっとみんな、このプロジェクトで大きな何かが生まれる、と感じているのです。それを多くの人に知ってもらいたいですね(ピーターさん)